

再生バッファのデータ量等の種々の条件に応じて、制御部がMの値を動的に変化させながら記録または再生動作を行っても良い。

- 上述のように、アフレコ編集したデータを情報記録媒体へ記録する際には、アフレコのオーディオデータを含むデータブロックを複数個まとめて情報記録媒体へ記録し、また、アフレコ編集された情報記録媒体を再生する際には、主シーケンスおよび追加シーケンスのそれぞれへの1回のアクセス毎に、連続する複数個のデータブロックをまとめて再生することにより、ピックアップのアクセス動作の回数を減らすことができる。これにより、アフレコ編集の条件が成立し易くなるので、従来アフレコ編集が不可能であると判断された情報記録媒体に対してもアフレコ編集が可能となり、また、これを再生することも可能となる。

図面の簡単な説明

- 図1は、本発明の一実施形態にかかる、領域内へのアフレコ編集の方法を表した図である。

図2は、ディスク上のオーディオデータ記録領域とビデオデータ記録領域の配置の一部分を一次元的に表した図である。

図3は、従来のアフレコ編集の方法の一例を表した図である。

図4は、オーディオデータ記録領域の詳細を表した図である。

- 図5は、オーディオデータと他種データの記録領域の詳細を表した図である。

図6は、本発明の一実施形態にかかる編集モデルを表した図である。

図7は、記録および再生バッファのデータ量の時間変化を表した図である。

- 図8は、本発明の一実施形態にかかる、M組まとめて領域内へのアフレコ編集を行なう方法を表した図である。

図 9 は、従来の、別領域へのアフレコ編集の方法の一例を表した図である。

図 10 は、本発明の一実施形態にかかる、別領域（追加シーケンス）へのアフレコ編集の方法を表した図である。

5 図 11 は、本発明の一実施形態にかかる、M組まとめて別領域（追加シーケンス）へのアフレコ編集を行なう方法を表した図である。

図 12 は、本発明の一実施形態にかかるアフレコ編集の処理内容を表したフローチャートである。

図 13 は、本発明の一実施形態にかかる記録再生装置の構成を表した
10 図である。

図 14 は、ディスク装置のアクセスモデルを表した図である。

図 15 は、本発明の一実施形態にかかるアフレコ編集の条件式をグラフで表した図である。

図 16 は、本発明の一実施形態にかかる記録再生装置における再生の
15 順序を表した図である。

発明を実施するための最良の形態

上記の第 1 の記録再生装置において、前記制御部が、同じ実時間に対応するオーディオデータとビデオデータのうちオーディオデータの方を
20 ビデオデータよりも先に再生するよう前記ピックアップの動作を制御することが好ましい。

また、上記第 1 の記録再生装置において、前記制御部が、前記主シーケンスおよび追加シーケンスから、同じ実時間に対応する M 個のデータブロックをそれぞれ読み出す際に、（1）前記主シーケンス内の M 個のデータ
25 ブロックの先頭ブロックからオリジナルのオーディオデータを再生し、（2）前記主シーケンス内の当該 M 個のデータブロックに対応する追